

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390900021		
法人名	株式会社 フレンズホーム		
事業所名	フレンズハウス古新町		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区古新町2丁目72番地		
自己評価作成日	平成23年2月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名			
所在地			
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入浴時、温泉の湯を使用しホームでないでも温泉を楽しんでもらえる。ホーム内ばかりではなく外出の機会を作り外食や喫茶店、遠足やカラオケなどに行く機会が多くある。ご家族様を積極的に誘い誕生日会やバーベキュー、盆踊りやクリスマス会等に参加して頂き、日々の暮らしを知っていただき安心して頂いている。
チームケアを大切に利用者一人一人が笑顔で過ごして頂けるよう心掛けている。利用者の方のしたいこと出来る事にも目を向けてその人らしく過ごしていただける様に考えています。充実して生活になるように、共に生活している良さが出来る様にしていきたい。
日頃から自由にユニット間の行き来があり合同で行事を行っている。行事にはご家族様にも参加して頂き楽しんで頂けるように努めている。
利用者様にできるだけ体験的活動、例えば外食、喫茶店、レクリエーションを多く取り入れ生き生きとした生活を送っていただけること、そして職員同士信頼し声を掛けあいながら支援し心をつなげて利用者様の幸せにつながるように日々努めている事。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念の共有以外に、ホーム（各ユニット）の理念を作成し理念の揭示をし職員一人一人が理解できるようにしてる。理念を心がけ日々の支援を行っているが全職員が意識できているかは分からない部分もある。理念の振り返りを行い理解が出来る様にしていきたい。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の会議に出席した際に、事業所の理解を求め理解して頂いている。町内のお祭りや防災訓練などにできよく的に参加し、散歩中には防犯を兼ねてパトロールを行っている。また地域の方に協力をしていただき行事や物品の貸し出しをしてくれる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて地域の方への働きかけや呼びかけは行っているが、実際には行えていない。区が開催する認知症家族の会に参加し専門職としての関わり等の話をしている。開所して半年、これからもっと地域の方とも交流を深めていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で事業所の活動報告を行っている。会議の中で取り上げられた地域の方からの要望や質問に関しても、次回の運営推進会議で報告している。会議内容の開示を行っており、参加されないご家族方も会議内容知ることができるようにしている。また、これからの取り組みに関しても意見、協力を求めている。議事録は職員が見れる様にファイルされており話し合った内容や布告などが職員にも理解出来る様になっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、事業所の実情や取り組みを伝えてはいるが、日頃からの密な連絡等は行えていない。主に対外的な事は管理者が行ってお職員は把握していないこともある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の玄関の施錠は行っていないが、夜間帯は安全の為玄関の施錠をしている。帰宅願望や外出希望の利用者の行動を見守りその都度声掛けを行い一緒についていくなど対応をしている。拘束の無い様に努め、職員の声掛けや対応の方法を職員間で話合っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	理解しきれていない職員には話をし、アドバイスをを行っている。日々の出来事や利用者の様子を職員から管理者が聞き適切なアドバイスや悩みを聞き良い方向を考えて話合っている。また利用者の心が傷つかない様に声掛けや対応を話し合い実践している。入浴介助の際には身体の状態を観察したり日頃の様子を職員間で共有している。研修や勉強会を行い認知症について理解ができる場を設けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に制度を利用している方がおらず実践で学ぶ機会がない。勉強会を通じて学ぶ機会を設けたが、まだまだ理解する必要がある、定期的に学ぶ機会を設けたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面ならびに口頭での十分な説明を行っている。また、契約時に施設内の見学や職員の対応等を見て頂き、ホームに日々の様子を見て頂いたり参加して頂き、不安を取り除き安心して頂けるように努めている。また「グループホームだからこんなこともできる」という管理者の思いも説明し理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口を設けており、契約時に説明を行っている。外部への相談方法も契約時に行っている。また、面会時にはこちらからご家族に声をかけ、話しやすい雰囲気を作っている。要望に応えられるように時間を作り話している。直接管理者や職員へ言われるご家族様が多く即対応ができており、その都度職員間で話し合いケアに反映されている。また年末には「古新会」と称しご家族が集まる機会を設けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度会議を開催し情報交換や職員の意見を聴く様に努めている。欠席者にも事前に会議内容に意見を聴く様にしている。何かあればいつでも意見等を言える環境になっている。またその意見を議題にし会議で話し合うこともある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の機会が設けられている。また研修や勉強会などを多く設け、やりがいや知識を得られる様な機会を設けている。自己評価と他者評価を行い、啓発的にフィードバックすることで向上心を持てるように働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常的に学ぶことを推進し、事業所外の研修にも多くの職員が参加出来る様機に確保に努めている。またその職員に合った外部研修を受ける機会を設けており、外部研修を受けた職員が主となり勉強会(報告会)を開き人職員が理解できるよう、また情報交換出来る様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣に同法人の姉妹法人があり、行事を通して交流の機会を設けている。また法人が開催する研修に参加することでも交流が図れている。法人外の研修に参加することで他事業所との交流図る機会も設けている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に趣味や楽しみなどを入居前にお聞きし生活形態の把握に努めている。また入居前にご本人が望んでいること、ご家族が望まれている生活等を聴きだし反省させている。またその都度希望や不安があれば傾聴するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、ご家族からも希望や要望を聴きだしケアに反映出来る様に努めている。また面会時には会話の中から少しでも聴き出せるように信頼関係作りに努めている。ご家族の思いや希望をしっかりと聞き取る様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居される前に、ご本人・ご家族が必要としている支援を聞きだし、利用者の状況に応じて他職種（訪問マッサージ等）事業所などと連携をとり対応している。また、利用者の状況を把握した上で支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常、ご本人が出来る食事作り、配膳、片づけ、洗濯、掃除等を無理のない様に職員と他利用者様と一緒にいう事で、やる気ややりがいに繋げている。職員が失敗した時には優しく声をかけてくれる場面もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、ご本人の状態や日常の様子をお伝えしている。またご家族からも面会時にご本人の気持ちを聴き出してもらいストレスの緩和や今後の支援につなげる等、ご家族との協力体制も築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の昔懐かしい思い出話をしっかりと聴き、大切にされている気持ちの共感に努めている。また、ご家族様に限らずご友人や馴染みに方が来所され楽しまれている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションには全員の方にお声かけしご本人に意思で参加して頂いている。利用者同士の関係も把握して上で職員が調整役になる様に気配りを行いながらトラブル回避に努めている。また食事の席にも配慮しており、手伝い等も一緒に行う事で関わりが持てる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在はそういった方がおらず、今後はそのような場合は行事にお誘いするなど関係を大切にしていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中で、把握出来る様に努めているが、全職員がその様には思っていない。自分の意思が伝えられない方の場合、その人の立場に立ち考える様にしている所です。 ご本人が過ごしやすいように努めている。訴えのあるときは聞き出来る限り伝えられる様にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にご本人の情報収集に努めている。一人一人の生活歴が分かるように資料づくりがされている。その情報を読み把握できる様に努めている。また本人との会話からも把握するように努めている。ご本人のバックグラウンドを知れば知るほどその人の理解につながると感じている。この取組を重要な事と捉え本人をはじめ家族や地域にいい方の力を借りながら行って行きたい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の1日の過ごし方や生活のリズムを理解する様に努めており、本人のペースで過ごしていただくようにコミュニケーションを図っている。毎日個別の記録を取り、読む事でその人の1日の生活が分かるようにしている。また申し送り時に変化等を職員同士が理解出来る様に伝えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成をする際には、ご本人の意見を聴く等している。家人にも状況を話し希望を聞きケアプランに反映させている。また会議でカンファレンスを開き情報交換を行いケアに反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録があり、食事量や水分量、日々の生活の風景や状態などを記録している。個別の申し送りノートも作成されており出勤時には必ず確認し情報の共有を行う様にしている。また、一人一人の様子が把握でき変化が分かる様に記録している。また必要に応じて記録用紙の改善に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や買い物等、送迎を行っている。ご家族の状況で協力性が必要と判断された場合臨機に対応させていただく場合もある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問マッサージや訪問理美容を活用しながら社会資源を活用している。また毎日に買い物の中で、今までの生活と同様に地域のスーパーで買い物をし、食品を選んだりお金を払う等者赤井との繋がりを大切にしている。また町内の方との関わりの中からも地域に密着できる様に努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に、今までのかかりつけ医に入居後もそのまま継続できる事を説明している。ホームの協力医療機関もあるが、ご本人やご家族が継続してかかりつけ医を望まれる場合、今までと変わらない状態で医療を受けられる環境を作っている。ご家族の同伴が難しい場合は職員が同行するなど対応の工夫をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師が週に1度訪問している。日々、利用者の観察を行い細かな事も看護師へ報告し相談助言を頂いている。看護師の記録ファイルの作成がされておりファイル内でのやり取りを行う事で不在時の様子も把握が出来る工夫をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、お見舞いに行き本人の様子を観察している。ご本人とも話す事で皆が待っている事を伝えるなどして安心して頂いている。入院先の看護師や医師と連絡をとり退院可能な時期の把握をしている。またご本人の状況の把握に努め退院後のケアの確認等、ご家族も含め連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際には重度化した場合や終末期の対応について説明を行っている。重度化した場合は主治医の指示の基連携を図り適切な対応に取り組んでいる。家族、本人がグループホームで何をしたいのか希望する生活が出来る様に努め、急変時の対応等を説明している。また末期である事を知った上で、どのように支援して行くかを話し合い、家族の要望に応える様に職員がチームとなり支援した。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急車が到着するまでの対応や応急処置や準備すべき事等について勉強会を開催している。内部研修や外部研修にて習ってはいるが、全ての職員がいざという時に対応できるかどうかは疑問である。そのためには各自で習得するなど学仏用がある。もっと定期的に行う必要がある。 次回の消防訓練では地域の消防団と消防署員の協力の基本心肺蘇生法やAEDの使用方法を学ぶ予定になっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内で行われている防災訓練に参加し、消火器の使い方等を教えて頂いた。開所し半年でもあり避難訓練はまだ行っていないが、今後行う予定である。		

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の事を理解し、その方に合った言葉かけをするように努めている。解除が必要な場合はまず本人への声掛けを大切にしている。介助中などはプライバシーを守る為の配慮をしている。人生の先輩として敬意を払い誇りやプライバシーを傷つけないよう注意をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「押し付け」のないよう、ご本人の意思、希望を出来る限り尊重してあげられるように努めている、返答をいそがせない等、ご本人のペースに合わせ待つ姿勢を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、時間を区切ったの過ごし方はしていない。急な要望が出来た場合でも出来る限り対応するように努め、時間帯などの調整を行いなるべく希望に添える様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えは基本的に本人の着たい物を着て頂いており、職員が決めてしまうことはなし。整容の乱れがある場合は、声掛けを行いご自分で直して頂いたり、職員が手伝う等の支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員利用者と共に食事作りを行っている。時には利用者の好みのメニューを取り入れている。談話をしながら食事をする場面も多くみられる。食事の準備は皆で一緒に行う様にしている。毎朝パン食が習慣であった方にはパン食を提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立はカロリー計算された物を参考にしており、職員は利用者の好みや季節に合ったメニューに変更している。個別に食事量や水分量を記録し把握出来る様にしている。しよくざいの大きさや両も個々に合った物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け援助を行っている。ほとんどのの方が洗面所で行い、なかには見守りが必要な方もおられ職員が支援している。就寝前には義歯を預かり洗浄している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけ自己にて排泄が出来る様排泄の間隔を把握し声掛けを行い、見守りや誘導の援助を行っている。定期の誘導以外にもその方に合った声掛け誘導を行っている。また声を掛ける際には自尊心に配慮して声掛けに努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録を確認しながら下剤にだけ頼る様な支援ではなく、食事やおやつにも工夫をし自然排便を促す工夫を個別に行っている。乳製品の摂取や水分、適度な運動やお腹を温める等支援しており、下剤もその方に合わせ調整し提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は一日置きに入浴になっているが、希望があれば対応できるようにしている。早めの入浴や一番を希望される方など希望を聞き入浴されている。入浴に拒否の強い方への対応も職員で話し合い考えて支援し、足浴や清拭を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は好きな時間に休息が出来る様に支援している。就寝時間も区切らず個々に合わせ好きな時間にしていただいている。夜間眠らない方には温かい飲み物を提供する等、安心して休む事が出来る環境を整えている。夜間、良く眠れる様に日中の活動にも気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに服用している内服の説明書があり、確認している。薬が変わった際は申し送り把握する様にしているが、なかなか誤薬が減らずその都度話し合い、日々安心して支援が行えるように、会議や勉強会を開く事で誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お抹茶をたてて頂いたり、散歩に行かれたり、希望に添える様に努め得ている。食事づくりや片づけや洗濯等、出来る事はお願いし行ってもらっているが、感謝の気持ちを伝えやりがいを感じてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食や喫茶店、遠足など行事を企画して出かける機会を設けている。ご家族の方にも協力していただき希望に添える様に努めている。日々買い物や散歩も希望に添える様にしているが、拒否やと要望を口にされない方の支援を今後の課題としていかなければならない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員ではないが何名の方はご自分でお財布を所持しておられて、買い物の際にはご自分で支払われている。金銭の所持に関してはご本人の安心につながる為少ない額で所持されている。また自分の財布からお金を払う事で社会性の維持につながる。ご自分で所持されていない方も預かりにおこずかいかたご自分で支払われる事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から強い要望がある場合に電話をお貸しする事があるが、現状では我慢して頂いている。また、現在は手紙やはがきを出す事はなく機会を設けていない。今後は機会を設けていきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備には常に整える様に心がけており、季節観を表した壁画を利用者と作成し飾っている。利用者が作成したカレンダーを貼っている。フロアーが殺風景にならない様に季節観のある壁画や利用者が作成した作品をかざっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーでは利用者同士が話をしたりテレビを観られている方がおられ、ゆっくりとして雰囲気がある。ソファが置かれており時折談笑されている方もおられるが、まだまだ活用されていないため配置を考え活用していく。食事の際には楽しい雰囲気ですぐに食事が出来る様に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等はご家族の方が準備された物が多いが、使い慣れた家具や使いやすい物を持ってきて頂いている方もいる。中には家族の写真やぬいぐるみなどを飾っておられる方もいる。仏壇も持参しお供えをしている方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレなど名前を各など分かりやすく工夫している。利用者の身体状況を把握し必要に応じた配置など職員が出来る環境整備に努めている。		